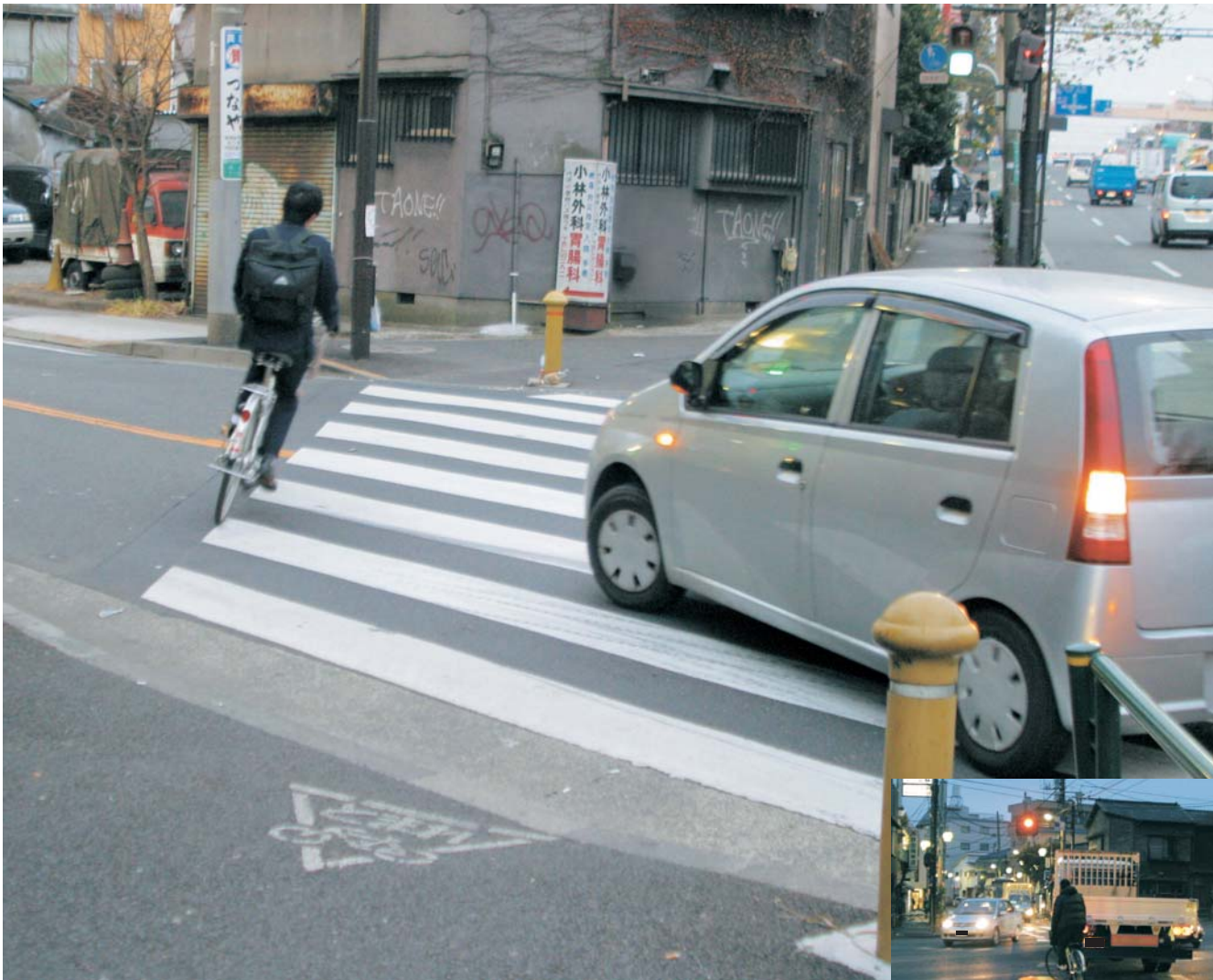
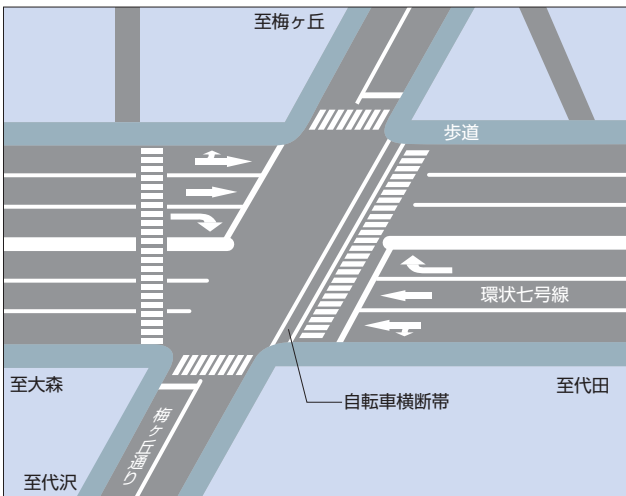


混合交通を観察する
DOCUMENT
series—192
Eye



●観察場所/東京都世田谷区代田3丁目付近
環状7号線と梅ヶ丘通りが交差する「宮前橋」交差点
●観察日/1月13日(金曜日)
●天候/曇
●観察時間/16:20~17:20(1時間)
●観察者/4名



観察場所は東京都世田谷区の環状7号線と梅ヶ丘通りが交差する「宮前橋交差点」。この交差点には、各方向ともに4つの横断歩道が設置されており、このうちのひとつは横断歩道とともに自転車横断帯が表示されている。

観察時間帯には多くの自転車が走行しており、1時間の観察でこの交差点を横断した自転車利用者は合計245人。ほとんどは20~50代の成人で201人。中学生・高校生30人、小学生以下3人、高齢者11人であった。

交差点を横断する前に左右の安全確認を行った自転車利用者は245人中33人



写真上/自転車が横断しているのに、左折しようとするクルマ。自転車は横断歩道の外側に膨らむように避けた
写真下/赤信号にもかかわらず、交差点の中央付近を通過しようとする自転車

●WHY
自転車利用者は交差点で左右確認を行っているか

2005年は交通事故死者数が49年ぶりに7000人を下回り、6871人となった。負傷者数も115万6633

人と前年より減少したが、依然として高い水準にある。そして、近年は自転車乗車中の負傷者が増加傾向にある。周囲が見えにくくなる日没前後の時

●WATCHING
自転車利用者は周囲への注意が希薄

観察場所は東京都世田谷区の環状7号線と梅ヶ丘通りが交差する「宮前橋交差点」。この交差点には、各方向ともに4つの横断歩道が設置されており、このうちのひとつは横断歩道とともに自転車横断帯が表示されている。

観察時間帯には多くの自転車が走行しており、1時間の観察でこの交差点を横断した自転車利用者は合計245人。ほとんどは20~50代の成人で201人。中学生・高校生30人、小学生以下3人、高齢者11人であった。

交差点を横断する前に左右の安全確認を行った自転車利用者は245人中33人

(13.5%)
で、ほとんどの人は青信号のみを確認して通過していた。また、信号が赤に変わってから、横断を始めた自転車利用者は7人いた。観察中、交差点にほぼ同時に自転車とクルマが進入するというケースが見られた。この時、クルマは交差点を左折しようとしたが、自転車の存在に気づいていないよう



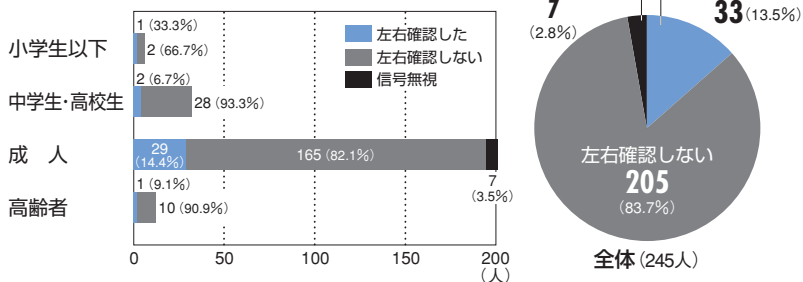
ライトを点灯させて横断する自転車

●PROPOSE
自転車利用者も自分が「見る・見られる」意識を持つ

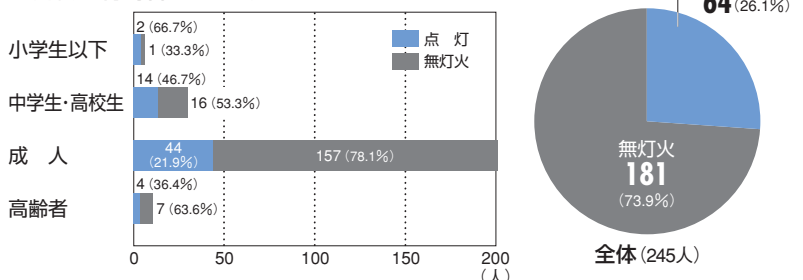
自転車利用者は、自分が「見る・見られる」ことについての意識が希薄であるようだった。交差点では、右左折してクルマのドライバーが、自転車の存在を見落とす場合もある。交差点を横断する際は、前方や信号だけでなく、事前に左右の安全を確認してほしい。また、夕方から夜にかけては相手から早めに自分の存在を認知してもらうためにもライトの点灯も必要である。

一方、ドライバーやライダーは夜でも無灯火の自転車が多いこと、自転車利用者のクルマやバイクへの注意が希薄であることを考慮して、安全に交差点を通過してほしい。

●自転車利用者の左右確認状況



●自転車利用者のライト点灯状況



※小学生以下(12歳以下)、中学生・高校生(13~18歳)、成人(19~64歳)、高齢者(65歳以上)の判断は観察者の見解による
※信号無視をした場合は左右確認をしても「左右確認した」にカウントせず